

学校目標・経営方針	富士北麓地域唯一の総合学科高校として、基礎的・基本的な学力を身につけるとともに、主体的に学ぶ力や課題解決力、専門的知識・技術を身につけ、地域を支え、動かし、持続可能な未来を創る人材を育成する。
-----------	--

本年度の重点目標	1 基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力育成のため、ICT等を活用しアウトプットを重視した`INPUT・OUTPUT=3:7`の授業を実践する。 2 地域への理解と愛着を育むため、地域を舞台とした実践的・体験的な課題解決型学習を実践する。 3 地域の産業、企業、上級学校をよく知り、将来納得のいく進路決定ができるキャリア教育を実践する。 4 生徒が目標設定、企画、運営、判断する主体的な教育活動を実践し、結果より過程に注目する。 5 全ての教育活動を通して、ルールを守り、人間として正しく生きようとする規範意識を育てる。
----------	---

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価			年度末評価(2月1日現在)			
本年度の重点目標			年度末評価(2月1日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	生徒の基礎学力の定着及び思考力・判断力・表現力育成のための授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力などを育成する授業の実施</li> <li>・基礎学力定着に向けた授業の実施</li> <li>・授業改善に向けた相互授業参観</li> <li>・生徒の学習改善と教員の授業改善につながる観点別評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの基礎診断の実施と結果の活用</li> <li>・スモールテストの実施(国・数)</li> <li>・論述問題を導入した定期試験</li> <li>・家庭学習習慣の確立</li> <li>・朝読書の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの基礎診断結果分析スモールテスト成績分析学校評価アンケート朝読書アンケート</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用に必要な環境(wifi等)が整ってきた。これからの時代に必要なスキルの育成のため、何が必要かを継続的に研究する。</li> <li>・いよいよ次年度は、全学年での観点別評価を実施するため、今までの研究成果を分析、改善し、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を図る。</li> <li>・相互授業参観は、更に参観率の向上と参観内容の共有を図り教職員の学び姿勢を育て、授業力向上を目指す。</li> <li>・スモールテストの目的、効果を検証し見直しを行う。</li> <li>・学びの基礎診断の分析結果を活用し、各系列ごとの分析を活かした授業改善を検討し家庭学習の定着を図る。</li> <li>・朝読書について、落ち着いた環境で読書をするのが生徒にとって貴重な場であり、有意義な時間となっており今後も継続したい。</li> </ul>
2	地域や保護者への情報発信と生徒と地域との交流活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」や総合ビジネス系列における実践と連動した連携活動の促進</li> <li>・在宅訪問や地域ボランティア活動の推進</li> <li>・学校間交流活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」は生徒・教職員の一定の評価を得ている。教育目標表現のために、外部団体との連携を取り入れた地域探究「自己啓発」などを実施した。さらに、キャリア教育としても効果的であった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の対応も緩和され、ふじざくら支援学校との学校間交流会も平常に戻った。</li> <li>・本年度、公開授業も実施され、保護者の皆さんも学校の様子を確認することができた。</li> <li>・学校便り・年次便りの発行は定期的に行われ情報発信がされた。</li> <li>・ホームページの充実</li> <li>・学校便り・年次便りの発行</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、外部との連携が平常に実施された。当初の目的をほぼ達成することができた。今後さらなる活動に向け改善を図る。</li> <li>・ホームページの利用率を向上させるため、速やかな更新、内容の見直しを行う。学校の行事だけでなく、日察の教育活動の様子も発信するなどホームページ等を利用し、情報発信のさらなる充実を図る。</li> <li>・公開授業は参観日を増やし、多くの保護者や地域の方々を招き、本校の教育内容への理解を深めている。</li> </ul>
3	キャリア教育と進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」の充実</li> <li>・インターンシップの充実</li> <li>・企業・大学との連携</li> <li>・資格取得の増進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート</li> <li>・資格取得結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産業社会と人間」は、課題の点検と改善を行っている中で生徒・教員から高評価を得ている。また、系列選択及びキャリア教育として効果的に行われている。</li> <li>・昨年度から「総合的な探究の時間」にエナジードコア(キャリア教育コンテンツ)を取り入れ、キャリア教育の充実を図った。</li> <li>・進路行事及びインターンシップも予定通り実施された。生徒の進路に応じた対応については、工夫をしながら一定の成果があった。また、外部機関との連携を密に行うことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産業社会と人間」は、系列選択の重要な役割を担っている。特に前期の体験学習は、大きく進路に関わってくるので、計画の段階から点検改善を行い、生徒にとって系列のミスマッチが起きないようにする。</li> <li>・進路行事は、今年度の反省を活かし実施方法など検討していく必要がある。また、地域人材の活用体制を構築する。</li> <li>・生徒が主体的に企画し実行できる力を学校行事や委員会活動を通して育成していく。</li> </ul>
4	特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員入部制(1年次生)の継続と2・3年次生への部活動継続の働きかけ</li> <li>・生徒が主体となった部及び委員会の企画運営と具体的目標・活動計画の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動調査(入部率等)</li> <li>・目標達成度(活動成果)</li> <li>・目標達成度(活動成果)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次に全員入部制を行っているが、2年次、3年次と加入率が下がっている。</li> <li>・委員会の活動がまだ少ない状況である。</li> <li>・生徒が主体となった部及び委員会の企画運営と具体的目標・活動計画の設定</li> <li>・顧問の複数配置や顧問同士での連携により、働き方改革に結びついた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が、部活動を3年間継続してできるように生徒会を中心に各顧問と連携し、生徒が主体的に活動し達成感を得られ自己肯定感、自己有用感が高まら工夫をしている。</li> <li>・生徒数減少、教員の定数減の中で、部活動の活性化を維持していくためには、地域人材の活用体制を構築する。</li> <li>・生徒が主体的に企画し実行できる力を学校行事や委員会活動を通して育成していく。</li> </ul>
5	基本的な生活習慣と規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、服装、言葉遣い、清掃等の指導の徹底</li> <li>・生命や人権、社会的規範を尊重する態度の育成</li> <li>・規範意識を涵養する講演会等の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶運動</li> <li>・服装点検</li> <li>・清掃点検</li> <li>・学校評価アンケート</li> <li>・生徒の諸活動状況</li> <li>・生徒感想文等</li> <li>・学校評価アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が、学校の規律、社会における基本的なマナーを守ることができている。しかし、一部の生徒で遅刻等、基本的な生活習慣が乱れており、改善の方策が急務である。</li> <li>・朝の登校指導で挨拶や服装指導等を通じて、規範意識向上のための指導が行われた。</li> <li>・規範意識を涵養したり、多様性を認めたりする講演会を開催し、生徒の生命や人権、社会的規範を尊重する態度を育成した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教育活動を通じて、生徒の規範意識を育成できるよう、各年次が連携した組織づくりに取り組む。</li> <li>・生徒が学校の内外に関わらず、意識や考え方、社会規範の大切さを自覚した、行動ととれるよう指導していく。</li> <li>・SNSの利用等について規範意識やマナーの向上を図り、安全・安心な学校づくりを徹底する。</li> </ul>

学校関係者評価		
実施日(令和6年2月13日)		
評価	意見・要望等	
3	生徒のアンケート結果を見れば、分かりやすい授業を提供していただいていることがよくわかります。今後社会生活を営んでいくうえで、基礎学力の定着は必修です。中学でもより良い中学校卒業改善を模してより努力を怠りません。家庭学習の習慣化は中学校でも極めて重要です。ただ、高校入試という関りには生徒にとっても重要なもので、その点から中学校としては進めていくことが多々あります。BYODの導入に伴うIT教育の知識と対応、多様なデバイスによる学習姿勢は評価できる。その際、何のためにIT機器を用いる教育が必要なのかの意義をお伝えすることが大切である。そして、従来の教育ではできなかったICT教育ではできないというメリットと従来の方法が優れているメリットの双方を整理してICT機器を活用することが大切だと感じた。また、家庭学習習慣の確立や朝読書の実施等はその行為に焦点を当てたのではなく、何のために行うかの意義を生徒一人ひとりが自覚すること「個性および能力の伸長」につながっていくのではないかと考察した。総合的に基礎知識をおよび、どんな場面に出くわしても正しい判断力をつける事が大事だと思います。家庭学習習慣、朝読書の生徒の評価が上げられたいと思います。	
3	地域に根差した教育を進められている北麓高校さんですので、地元で貢献できる地域人材を育成し、即戦力としての労働力を提供していただいていること、富士北麓地域に住むものとして大変ありがたいことです。そのため多くの卒業生からの支援・助言等が生かされていることに関心を持っていただきたいと思います。本校の中学校でもホームページではなく、保護者メールでの対応がほとんどとなっているので、学校からの発信は学年や学年級からの通信がほとんどです。学校の努力だけでは学びの環境は変わらない。コロナ、BYOD等、変化を続ける新しい生活様式を踏まえて、本人を含めた家庭が主体的に取り組むようなシステムができるとより良い環境が整うと思います。進路指導の情報提供について、生徒に比べて保護者の評価が低い(学校評価アンケート【生徒No2】【保護者No19】)の学習の取り組みは素晴らしいが、保護者の求めている情報と学校が発信するべきと書いている情報とに差があると感じました。盛り合わせがなされるより学校の良いところだけをピックアップし、また、子どもも入学させて良かったという項目について、3年生が最も高い結果となっている(学校評価アンケート【保護者No10】)この結果から、保護者と関わる機会がより増えれば認識のずれも修正され、学校の目指す分野への協力体制構築につながっていくと示唆された。地域の企業の方、専門分野の講師の方に向けた授業参観等も良いと思います。学校のホームページがもっと利用出来る様になればと思います。	
3	資格を得る、技術を学ぶなど、系列もしつり機能し、キャリア教育の先端をいく北麓高校さんですので、この点についてはほかの高校にはない魅力を十分に感じることできます。また、大学進学という面にも門戸が開かれているので、生徒にとって様々な選択肢が広がり、ありがたいです。進路相談部と各系列・年次との連携強化については更なる発展の可能性があると感じました。学校評価アンケート【教員No2】にあるように教職員の積極的な情報、より活発な意見交換ができています。昨年度から実施されたキャリア教育の充実、キャリア教育の充実、大きな変化を求め、現在、総合学科高校からその期待が大きい。内容が共有できる共通基盤が構築して「キャリア」を醸成した。現状でそのアンケート結果や報告は見られなかったが、「産業社会と人間」と総合的な探究の時間」の評価について前年比で①が減少、②が増加している。これらの科目は系列関係なく共通基盤となる科目のため、取り扱う内容と共に、教員間のコミュニケーションについても検討すると学生満足度が向上するのではないかと推察した。将来の夢に向かい歩みを進めようとする真摯に向き合っていると思います。	
3	異学年との交流も含め、部活動は自主的な運営の中で活動しては大変必要なので、北麓高校さんにおいても生徒自身の活発な活動がうかがえます。一方、業務改善が叫ばれる中、一番の失念に立っているのも部活動です。中学校でもなかなか進まない地域移行が悩みの種です。部活動の全員入部制については、消極的な生徒も強制的に新しい体験ができたため、多様な感性を育むうえで意味があると考える(第3回評議員会資料p22-40)。一方で、系列選択等の様々な進路選択ができる総合学科の特性を考慮すると、消極的な生徒は望ましくないが、他に開き出した場合必ずしも部活動を継続してほしいという気持ちも感じます。総合学科の必要は、ただ勉強すればいいのではなく、社会を身近に感じながらの進路選択が必須になる。そのため、主体性を育む特別活動は大きな意義があると考察する。懸念事項として、部活動をはじめ特別活動が活発になればなるほど、生徒の主体性を尊重すればするほど教員の業務量が増える。そのため、教員一人ひとりの負担増が心配される。外部講師等、様々な資源を活用した活性化が望ましい。部活動、委員会活動は目標に向かい一丸となり進める事が出来たと認めるので、生徒、教員にとって最も良いコミュニケーションになると思います。また、強豪の部活動がある事で生徒の増加につながると思います。	
3	授業参観をさせていただいたときなども大変さやかかあいつかわり、私たちが迎え入れてくれる様子などからも、基本的な生活習慣は十分に身につけていると思います。中学校でも高校生に負けず、入学してからも恥ずかしくないよう指導していきたいです。高校訪問時、それまで生徒は全員挨拶ができていたが、来校した瞬間に、GIGAという形態で、GIGAという形態で、GIGAの普及等の新しい生活様式に伴う多様な変化として、コミュニケーションの希薄化が指摘されている中でこの現状は素晴らしい。評価項目に比べて日々大切さの大切さを自覚した、行動ととれるよう指導していく。また、マナーや気遣い、思いやり等、他者の在り方を尊重する取り組内容が取り入れられており、規範意識の高まりが期待できると感じました。こうした地道な取り組みがじりめ問題の深刻化を防ぐ一歩となると思います。みんなと違うことを恐れるのではなく、みんな違うことを当たり前に認めて、今後他校へも取り組を期待したい。社会に出る為の教育の場でもあるので一般常識な事は当然だと思います。	